

# 香取遺産

Vol.116

圓生涯学習課

☎(50)1224

下仲町の山車人形「菅原道真」

だし飾りの到達点

三代目安本龜八の傑作



▲菅原道真（下仲町）



▶仁徳天皇  
（南横宿）



▶経津主命  
（荒久）



▶桃太郎  
（中宿）

◀菅原道真近景



時の名人としては、松本喜三郎や安本龜八が有名です。佐原の大人形を手掛けたのは、生人形作りの名人と呼ばれた三代目の安本龜八です。三代目龜八は明治元年（1868）に初代龜八の三男として生まれ、幼名を龜三郎といいました。下仲町の菅原道真の人形が出来たときに佐原に来て「この人形はよく出来たので大事にしてほしい」と言っていたそうです。

明治から大正期にかけて、佐原は大人形づくりの一大ブームを迎えます。数々作られる人形の出来は、その町内の評判を左右し、必然的に高度な技術を要求するようになっていきます。そして、ブームの末期に迎えた到達点は、生人形による大人形制作でした。

「生人形」とは、生きた人に似せて作った人形のことです。徹底した写実主義に基づき血管や皺、歯など細部に至るまで精密に彫られているものです。江戸時代末期から明治の中頃まで、見世物として庶民の人気を博していました。当

定されました。